

初回印象採得時には保護者へ麻酔科医より印象材の誤嚥による起動閉塞のリスクなどを含めたインフォームドコンセントを行い、同意が得られた患児のみ印象を行う。また、嘔吐反射によるミルクの誤嚥もリスクの一つになるので、印象採得前4時間の絶食を指示する。乳幼児であるため、体動が多く、口も開けていられないため、多くの補助を必要としている。

【まとめ】術前顎矯正治療を行うことで顎裂部の狭小化を図り、口唇形成術の施行を容易にし歯肉骨膜形成術を同時に施行することが可能となった。

10) 奥羽大学歯学部附属病院予診科における最近の初診患者の動向 一第3報一

○清野 晃孝, 小松 泰典, 渡邊 崇, 成田 知史
保田 穰, 佐藤 健太, 北條健太郎, 山家 尚仁
鈴木 史彦, 佐々木重夫, 瀬川 洋, 杉田 俊博
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科)

【目的】奥羽大学歯学部附属病院は、歯科医療に求められる安全で安心な医療サービスの充実に心がけており、ニーズの多様化に対応すべく各種専門外来を設け、地域医療機関からは検査および特殊な疾患の治療などの依頼も受けている。

そこで高齢化および郡山富田駅新設等の地域環境の著しい変化に対応すべく、本院予診科における初診患者の動向について平成26年と27年に行った調査に加え、今年度の同時期に調査・比較検討を行ったので報告した。

【調査方法】対象は、平成29年8月18日から9月30日までにおいて本院予診科に来院した初診患者の中で、アンケートに同意の得られた225名である。

アンケート項目は、性別、年齢、職業、住所、主訴、交通手段、当院選択理由の7項目とした。

【結果および考察】本院予診科における直近の初診患者の動向をH26年およびH27年の同時期と比較した結果、

1. 女性がわずかに多く、56%を占め、以前とほぼ同じであった。

2. 年代別では、H27は50代が最高値であったものが今年度は60代が最高値であり、20代と80歳以上が確実に伸びていることが特徴的であった。

3. 職業は男女ともに会社員が最大であるも女性の未記入が目立った。

4. 住所は郡山市内が減少傾向にあるも、郡山富田駅利用による会津地方からの伸びは認められなかった。

5. 主訴は最大値の歯痛が減少傾向にあり、その他が増加し病態の多様性が強調された。

6. 交通手段は依然として車が多く、電車は浸透していないようであった。

7. 当院を選択した理由は、女性は「以前の受診から」が多いものの全体的には「他院紹介」や「本院の評判」が微増していることも伺えた。

本調査から患者層の高齢化、住所や職業の未記入が目立ち、さらに主訴の多様性が顕著にみられ社会構造の変化が当地域でも発現している中で、本院は大学病院としての信頼性はもとより、奥羽大学だからとの「評判」に近づいていることが示された。

11) 生体構造学講座法歯学3年間における鑑定実績報告

○花岡 洋一
(奥羽大・歯・生体構造)

【緒言】平成26年11月1日、関東地区以外では初となる、専任教授を置いた法歯学教育研究組織が奥羽大学に誕生してから丸3年が経過した。そこで、この3年間(平成26年11月1日～平成29年10月30日)における生体構造学講座法歯学の鑑定実績について統計的検討を行ったので報告する。

「鑑定」は大きく2つに分けられる。1つは美術・骨董品の良否や真贋の判断、不動産の評価等に用いられる「鑑定」と、法律用語としての「鑑定」である。本報告における「鑑定」はあくまで法的責任を伴う刑事訴訟法ならびに民事訴訟法に規定された「鑑定」を意味するものである

【結果】

1. 3年間における鑑定総数は33件であった。

2. 鑑定依頼者は警視庁が最も多く30件で9割以上を占め、山形県警察本部、茨城県警察本部ならびに民間の法律事務所がそれぞれ1件づつであった。